

1 学校教育目標

- (1) 勢いと動きのある学校づくり
- ① 学年、分掌、事務室等との連携による組織力の一層の向上
  - ② 現役合格率の更なる向上及び部活動・学校行事等の一層の充実(→文武両道の継承)
  - ③ 第2期SSHの全校的な協力体制による推進
  - ④ 積極的な情報の発信(→学校HPの充実・迅速な更新)
- (2) 生徒や授業が自慢の学校づくり
- ① 文武両道を継承し、品格と教養のある生徒の育成
  - ② 心の教育の進展と生徒相互の信頼関係の確立
  - ③ わかる授業及び興味・関心を高める授業の展開
  - ④ 授業評価に基づく授業の改善・充実

〈中・長期目標〉 伝統を継承し、相互の信頼感を深め、不断の努力によって学力の充実した心身ともにたくましい生徒を育成

2 本年度【平成27年度】重点を置いて目指す目標・具体的方策

- ① 総務課  
全教職員の協力で式典、行事を開催するにあたり、各分掌間の連絡を密にしていく。分校との連携内容についてさらなる検討をする。PTA活動の活性化を図る。ホームページの更新によるタイムリーな情報発信を行う。
- ② 教務課  
生徒の進路実現に適切に対応する教育課程の編成と教育活動をスムーズに展開するためのガイダンス機能を充実する。
- ③ 生徒課  
登下校時の交通指導や車中指導の強化、二大行事では事前指導の徹底や6月のより円滑で学習とのバランスの取れた準備活動とする。
- ④ 進路指導課  
個に応じたきめ細かな進路指導の継続、学習計画表の作成等による主体的な学習への取組を指導、教員の進路指導力の更なる向上を図る。
- ⑤ 教育相談課  
効果的な研修会・講演会等を実施するとともに、多様な生徒への支援の在り方のノウハウをさらに定着させる。
- ⑥ 図書視聴覚課  
読書活動を一層推進するとともに図書室利用マナーの向上と図書配架の充実を図る。
- ⑦ 情報企画課  
公開情報の発信を円滑に行い、かつ、校内情報は遺漏・紛失などは発生しておらず適切な運用を行っている。サーバの更新が近付いており、安全性のより一層の確保のための計画と予算措置が必要である。
- ⑧ 保健体育課  
体力の向上、望ましい人間関係づくり、環境美化の推進にむけて、自主自律の精神をさらに向上させる。
- ⑨ 理数科  
大学や企業と連携して先端科学技術の学習を進め、課題研究で得られた成果を各教科でのアクティブラーニングに繋げる取組を推進する。
- ⑩ 業務改善  
本校全日制・定時制・両分校の円滑な運営のための連携体制を確立する。授業改善(徳高型アクティブラーニング)・進路指導・特別活動のバランスを取るための具体的な工夫改善点を取りまとめ、実践する。

3 自己評価					4 学校関係者評価		
評価領域	重点目標	具体的方策(教育活動)	評価基準	達成度	重点目標の達成状況の診断・分析	学校関係者からの意見・要望等	評価
総務課	○学年、分掌、事務室、定時制、分校との連携強化、PTA活動の一層の充実	○学校行事、教職員研修等において、定時制・分校の参加など交流を促進する。 ○PTAだよりの編集への参加等PTA活動を活性化させる。また、ホームページにPTA関連の情報掲載を検討する。	4:十分に連携、交流ができた。 3:連携、交流ができた。 2:連携、交流が不十分であった。 1:連携、交流ができなかった。	4	○定時制は教員研修や徳高祭等への参加で交流ができていたが、分校とは入学式のみで課題が残る。 ○PTAだよりにPTA関係コーナーを設けたが、常任委員の編集参加等の連携を強化していきたい。	○本校と分校の生徒の交流はどのような形で実現されているのか。  ○PTAだよりのPTA関係コーナーはあまり気を付けて見ていないが、学校ホームページにあげるなど、もっと広報活動を活発にするとよいのではないのか。	A
教務課	○教育課程の充実と更なる研究	○生徒の進路実現に適切に対応する教育課程の編成と教育活動をスムーズに展開するためのガイダンス機能の充実。	4:校内体制を構築するとともに、年間指導計画の充実・実施を果たせた。 3:校内体制を構築するとともに、年間指導計画の充実・実施が十分果たせなかった。 2:共通理解は図れたが、校内体制が機能せず、年間指導計画の充実が不十分だった。 1:共通理解は図れず、校内体制を構築できなかった。	4	○単位制への移行、新テスト導入や新学習指導要領の実施に向けた準備を、各教科・分掌・学年間の連携をとりつつ、教育課程検討委員会を開催して、今後の教育課程編成等を検討した。	○「単位制」とはどのような方法のものなのか。今までとは何が変わるのか。どのような学習効果が期待できるのか。  ○授業について行けていない生徒への学習支援はどのように取り組んでいるのか。	A
生徒課	○文武両道を継承し、生徒が主体的に取り組む学校行事等の特別活動を充実	○生徒自身が企画・運営する学校行事を通じて、さまざまな課題を克服することによって、達成感や自己有用感を育み、豊かな社会性や人間性を磨くことができるように指導し援助する。	4:行事の成功で生徒全員が成長した 3:80%以上の生徒が満足できる行事となった 2:生徒の自主活動や意欲が低調だった 1:50%以上の生徒が不満を抱え見直しが必要である	4	○二大行事(運動会・徳高祭)を中心に、生徒自身が工夫・企画・運営する活動の場を確保し、生徒の人間的な成長を促すことができた。	○学校行事は、生徒にとって様々な体験になり、今後も継承していくとよいのではないのか。  ○部活動後の課外など、生徒の状況に応じたきめ細かな取組に大変感謝している保護者がいる。	A
進路指導課	○各学年の重点目標を共有し、個に応じたきめ細かな進路指導の継続	○第1学年一学習オリエンテーションを実施するなど、『予習・授業・復習』サイクルによる学習習慣の確立と基礎学力の定着を図る。  ○第2学年一学習計画表作成・受験アタック課外・模試の実施等により早期受験態勢作りを促す。  ○第3学年一学習計画表作成・センター試験対策講座の実施等により、受験学力の養成と行事からの切り替え指導を効果的に行う。	4:生徒の学習習慣が定着し、学力が向上した。 3:生徒の学習習慣が定着した。 2:指導の成果があまり見られなかった。 1:指導の成果がほとんど見られなかった。  4:生徒の受験への取組が十分できた。 3:生徒の受験への取り組みができた。 2:成果があまり見られなかった。 1:成果がほとんど見られなかった。  4:取組により学力が著しく向上した。 3:取組により学力が向上した。 2:取組の成果があまり現れなかった。 1:成果がほとんど現れなかった。	4  4  3	○「学習オリエンテーション」等の4月当初の取組により、高校の学習にスムーズに適應できた。夏季課外の全員実施等により、基礎学力が定着した。  ○進路講演会、学年集会、個別指導、面談等を実施することで、受験態勢の早期確立に向けて努力を続けており、学年全体の受験に対する意識が高まってきた。  ○学習計画や模試の結果をもとに、面談等で個別に進路指導を実施した。学年集会やLHRで進路に関する全体指導を実施し、学年全体の受験への意識を高めた。	○第3学年の達成度が「3」である理由は何か。単に厳しい評価であっただけでなく、評価規準が学年によって異なっているのが理由ではないか。  ○各学年の評価規準の観点の違いに着目すると、第1学年が「学習習慣の定着」で、第2学年が「受験への取組」、第3学年が「学力の向上」となっている。第3学年の学力の向上はどのような観点で評価するのか。  ○生徒・保護者・教職員の「学力観」のずれに対して、学校はどのように分析し改善しようとしているのか。	A

教育相談課	○人権に配慮した指導の充実	○生徒の人権意識を育てるために日常生活全般で、人権に配慮し教育活動が行えるよう啓発する。	4:取り組みにより意識が著しく向上した。 3:真剣に取り組み生徒の意識かなり変わった。 2:取り組みの成果が十分現れなかった。 1:意識の切り替えが遅れた。	3	○各学年担当者が、学年会に参加し連絡調整を行った。注意を要する生徒がいる場合は担任等と連絡会をもち継続的に検討した。	○保健室登校が増えたと聞いたが、特に3年生の保健室の利用は現在どのような状況なのか。  ○評価規準に「著しく向上した」とあるが、どのような状態を表しているのか。著しいとすると「4」が付けづらいのではないかと。	B
図書視聴覚課	○読書活動の充実	○LHRでの図書館教育に加え、新着図書案内、図書だより、企画展示、出張貸出等を行う。	4:活動状況は例年より好調であった。 3:活動状況は例年並みであった。 2:活動状況は例年より低調であった。 1:活動状況は顕著に低調であった。	4	○夏休みの読書感想文のレベルが優れているとともに、読書ノートも良好である。	○特に意見・要望はない。	A
情報企画課	○安全性・可用性の向上と維持	○インターネット上及び校内LAN上にある資源の安全で適切な利用のため、手順と環境整備の周知と保持を行う。	4:安全を保って有効な活用と整備ができた。 3:多数の教員と生徒に周知ができた。 2:取り組んだが徹底できなかった。 1:計画のみに終わった。	3	○運用は順調であり、LANとインターネットを利用した業務支援を行った。	○情報機器・設備整備に関しては、予算的な面で難しいことが多いので、教員の努力等では対応できないのではないかと。	B
保健体育課	○たくましく生きるための体力の向上	○集団行動の徹底を前提にして、運動を楽しむんだり、競い合ったりする中で、自己の体力と運動能力を向上させる。	4:集団行動が徹底され、自主的に工夫して活動していた。 3:自主的に工夫して活動する生徒が多かった。 2:自主的に活動する生徒が半数程度だった。 1:自主的に活動しない生徒が多かった。	4	○行事・授業を通して集団行動の徹底を図った。基礎的技術の習得・戦術理解により、生徒の主体的・自主的な活動が多く見られた。	○行事や授業でたくましく生き抜く力を身に付けてほしい。	A
理数科SSH	○SSHの活用による理数科の活性化	○SSHを活用し、企業・大学との連携を進めていく。	4:教育効果の高い活動が十分できた。 3:SSHの活動がほぼ予定通りできた。 2:SSHの活動の一部がやや遅れた。 1:予定していた活動ができなかった。	4	○SSHの取組によって、生徒の興味関心は確実に深化しており、校外でのセミナー、各種オリンピックなどへの参加も積極的になっており、科学の甲子園等の全国大会にも出場する。	○2期目の1年次の取組は海外研修の充実や「推進室」の設置に向けた全校体制づくりなどが順調であることがわかった。	A
業務改善	○授業改善・進路指導・特別活動のバランスを取るための具体的な工夫改善点	○進学校として、生徒一人ひとりの進路実現に向けた組織的な取組を進めつつ、文武両道の継承や体験活動の重視を意識した上で、教職員の多忙感の解消に向けた二大行事の具体的な工夫改善を図る。	4:全教職員の協力の下、円滑に実施することができた。 3:円滑に実施できた。 2:改善すべき点があった。 1:改善すべき点が多くあった。	3	○生徒の主体性・体験活動を重視する授業展開を工夫するとともに、文武両道・二大行事後の切り替え指導、大学進学に向けた指導体制等について、課題意識をもって教育活動について実践した。	○業務改善が「3」にとどまっている理由は何か。	B